

2011 年 12 月 6 日

報道関係者各位

No.60104

株式会社東陽テクニカ

複雑な派生開発をスマートに解決するストリーム機能を搭載 高速ソフトウェア構成管理ツール“PERFORCE 2011.1”を販売開始

株式会社東陽テクニカ(本社:東京都中央区・社長:五味 勝)は、米国 Perforce Software Inc.(以下、Perforce Software 社)製品 ソフトウェア構成管理ツールの新バージョン PERFORCE 2011.1 の出荷を 2012 年 1 月から開始いたします。

PERFORCE は、ソフトウェア開発における成果物*1の構成、変更履歴、派生開発における分岐(ブランチ)や統合(マージ)の履歴を管理するためのソフトウェア構成管理ツールです。独自の通信プロトコルを用いた高速データ転送、豊富なグラフィカルユーザインタフェース機能によるユーザビリティの高さ、アクセス制御などの管理作業のしやすさが特長で、大規模開発にも耐えうるスケーラビリティを備えています。

*1 成果物: ソフトウェアの開発中に作成されたソースファイルやドキュメントなど

今回の新バージョンでは、新たにストリーム機能が搭載されました。

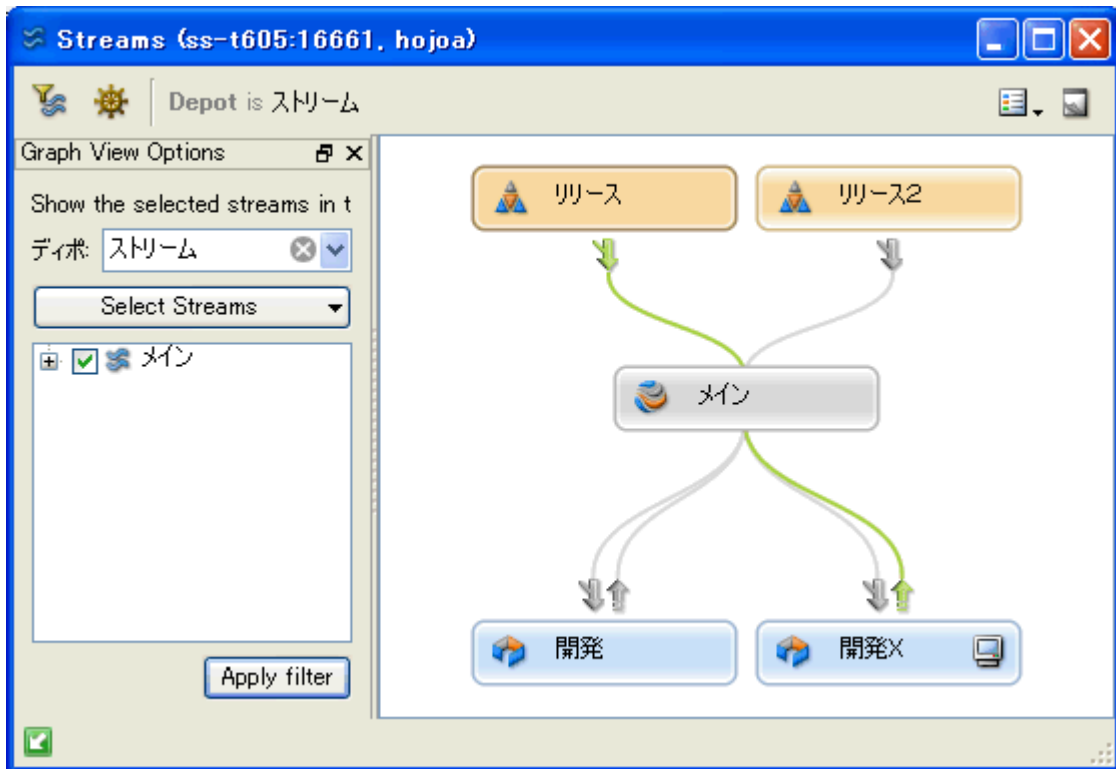
ストリームとは、Perforce Software 社が古くから提唱しているコードライン*2の概念を具現化したもので、メインの開発ライン、別のラインから派生した開発ライン、リリース済みの成果物のメンテナンスラインなど、ライン間の関係をより明確に定義できるものです。

これにより、ツールがライン間の関係を自動監視し、マージの必要性をユーザに通知するなどの支援をしてくれるようになります。

*2 コードライン: ソフトウェアを開発するためのソースファイルやドキュメントなどの成果物の集まりが更新されていく過程を表したもの

また、ライン間の関係を可視化するストリームグラフ(図を参照)が搭載されているため、ユーザは開発ラインの状態とマージの必要性を視覚的に理解することができます。

例えば、リリース済み成果物のメンテナンスラインに対してバグ修正を行った場合、その結果を関連するメインの開発ラインにも反映する必要がありますが、PERFORCE はこのような状況を自動的に認識して、ストリームグラフ上にマージの必要性を表示します。



ストリームグラフ

ファイル単位ではなく、開発ラインを単位として、各ライン間の関係を視覚的に理解できる。

左側の“リリース”、“メイン”、“開発”などの箱が一つのライン。

ライン間を結ぶ緑色の矢印は、マージの必要性を示している。

このように、ユーザはマージが必要なラインを一目で認識できるようになるので、マージ忘れを防ぐことができます。

ストリーム機能により、開発者はライン間の関係に煩わされることなく、より安心して構成管理を行うことができます。

PERFORCE の稼働環境は、Windows XP/Vista/7、Windows Server 2003/2008 R2、Linux Kernel 2.6、Solaris 10、MacOS X です(詳細はお問い合わせください)。ユーザロックライセンスを採用し、12万円(税別、ボリュームディスカウントあり)です。

[米国 Perforce Software 社について]

Perforce Software 社は、カリフォルニア州アラメダに本社を構え、海外事業所をイギリス、オーストラリア、およびカナダに置く企業です。今年で創業 15 周年を迎えます。

Perforce Software 社は堅牢性と柔軟性を備えたソフトウェア構成管理ツール PERFORCEを提供しています。

PERFORCE は、あらゆるチームの伝統的または敏捷なワークフローに適合し、生産性を高めることができるツールです。

また、ソフトウェア品質を向上させ、顧客が迅速に市場の変化に順応できる環境を提供します。

Perforce Software 社の技術サポートは、世界最高レベルであり、他の追随を許しません。

今日では、5,400におよぶ企業で38万人以上のユーザがPERFORCEを使用しています。顧客には様々な業界の名だたる企業が含まれています。

米国 Perforce Software Inc.に関する詳細は www.perforce.com をご覧下さい。

米国 Perforce Software Inc.製製品に関するお問い合わせは下記までお願いします。

株式会社東陽テクニカ ソフトウェア・ソリューション

Tel:03-3279-0771 Fax:03-3246-0645 E-mail: ss_sales@toyo.co.jp

[株式会社東陽テクニカについて]

東陽テクニカは昭和 28 年の設立より「技術と情報」をキーワードに、最先端の「測るツール」を内外の電子計測器メーカーより輸入し、日本の技術発展に寄与することを使命として、日本の研究者・開発者に提供してきました。「電子技術センター」における修理、校正、技術サポートや自社製品の開発、「テクノロジーインターフェースセンター」で行うお客様向けの各種セミナー・トレーニングなどの取組みは、400 人を超える全従業員の 8 割を占めるエンジニアの技術力に裏付けられています。東陽テクニカはこれからも、「テクノロジーインターフェース」の使命を果たすべく努力してまいります。東陽テクニカに関する詳細は、www.toyo.co.jp をご覧下さい。

当社に関するご質問は下記までお願いします。

株式会社東陽テクニカ 経営企画室

Tel:03-3279-0771 Fax:03-3246-0645 E-mail: kikaku@toyo.co.jp

* 記載されている会社名、製品名は、各社の商標、もしくは登録商標です。

* 記載の商品名、価格および担当部署、担当者、Web サイトの URL などは、本リリース発表時点のものです。